

覚

四年

画数 12
筆順 ッ 艹 覚

オン カク
クン おぼへえる・さひますりめる

成り立ち



「学ぶ」という意味の「学」の字の「子」をはぶいた「心」と「見」とを組み合わせて作った字です。

「見」で「学ぶ」という意味の字で、「見た物事を「おぼえる」ことを」表したものです。

「学習」は、「よく見て「おぼえる」こと」がたいせつだということを表した字です。

「よくわかる」という意味から「さとる」「さめる」という意味にも使われます。例覚悟、自覚、覚醒。

また、「感覚」の意味にも使われます。例視覚、聴覚、味覚、錯覚。

使い方

▽ハツとして夢から覚めたが、もう夢の中身は覚えていなかった。

▽運動会で、リレーの選手になりました。びりになるのを覚悟で、夢中で走ったら、思いがけず、二位になりました。

熟語例

▽覚悟（心をきめること。もともとは「さとる」という意味のことばでした。「覚悟をきめたら、心の中がすっきりした」などというふうには、つかいません。）

▽自覚（自分について、はっきりとさとること。「君は、自分がよくないという自覚がないから、ためだ」などというふうには、つかいません。）

▽覚醒（目が覚めること。また、迷いを覚ますことにもつかいます。「この世は仮の世界だと覚醒した」などというふうには、つかいません。）

▽視覚（目でものを見る感覚。「視覚が失われると、ほかの感覚が鋭くなる」などというふうには、つかいません。）

▽錯覚（かんちがいすること。「目の錯覚」などというふうには、つかいません。）

完

四年

画数 7
筆順 宀 宀 完

オン カン
クン

成り立ち



人の頭という意味から「もと」という意味に使われている「元」と、家の形を表し、「家」という意味に使われる「宀」とを組み合わせて作った字です。

「元ができてあがつている家」という意味の字で、そういう家は「終わりをまっとうすることができる」ことから、まっとうする（終わるまでりっぱにやりとげること）という意味に使われます。例完成、完勝。

また、「すっかり終わる」という意味にも使います。例完了、完納。

使い方

▽クラス全員で作った絵が完成しました。たて十メートル、横十メートルの大きな絵で、完成させるまでに、三か月もかかりました。

▽宿題を完全にやり終えてから、友だちと遊びに行きました。

熟語例

▽完成（完全にできあがること。「工事が完成して、立派な体育館ができあがった」などというふうには、つかいません。）

▽完全（足りないところのないこと。「人間、だれも完全無欠な人はいない」などというふうには、つかいません。）

▽完勝（完全に勝つこと。全部、勝つこと。「ぼくたちの野球チームは、九勝ゼロ敗で、完勝した」などというふうには、つかいません。）

▽完了（すっかり終わること。「準備が完了した」などというふうには、つかいません。）

▽完納（すっかり納めきること。「税金を完納したので、ほっとした」などというふうには、つかいません。）